

北海道男女平等参画審議会専門部会開催状況（概要）

1 第1回専門部会

(1) 日時

平成21年11月19日(木) 10:00～11:30

(2) 場所

北海道庁本庁舎12階 環境生活部1号会議室

(3) 議題

- ① 北海道男女平等参画チャレンジ賞について
- ② 平成21年度北海道男女平等参画チャレンジ賞の選考について

(4) 内容

- ① 事務局から賞の内容説明
賞の概要、過去の受賞者、今年度の募集状況等について事務局より説明した。
- ② 選考
事前選考意見を集約した資料をもとに、各受賞候補者について意見交換し、選考した。
(今年度は、5件の推薦があり、その中から2件選考した。)

<選考結果>

- ・輝く女性のチャレンジ賞 梅木 あゆみ (月形町)
 - ・輝く北のチャレンジ賞 本町かみさん会 (石狩市)
- ※敬称略

選考理由については、別紙のとおり。

2 専門部会委員名簿

氏名	所属	職名	
大野洋子			公募
梶井祥子	北海道武蔵女子短期大学	准教授	
佐藤正啓	株式会社北海道アルバイト情報社	取締役	部会長
名取章	北海道経営者協会	事務局次長 兼総務部長	
松田朋子	日本労働組合総連合会北海道連合会	女性委員会 委員長	

平成21年度北海道男女平等参画チャレンジ賞選考理由

【輝く女性のチャレンジ賞】

氏名	うめき 梅木 あゆみ	現職等	有限会社コテージガーデン代表取締役	住所	月形町
<p>《選考理由》</p> <p>出産を機に、生まれ育った月形町にUターンし、一女三男の子育てをしながら趣味でガーデニング用の花苗を作り始める。その趣味が高じ、子育て真っ最中の1995年に生産直販園芸店コテージガーデンを創業。あまり出回っていない種を輸入し作る花苗の販売や、そのガーデニング手法などが評判となり、仕事の幅は徐々に広がる。現在では本拠地月形の他、札幌市の百合が原公園にも店舗を構えるに至る。また、仕事の内容も多岐に渡り、植物苗約2000品種の生産直販の他、道内の公園やガーデンのプラン、植栽工事、管理などを担当し、多くの人にガーデニングを楽しむ提案を行っている。</p> <p>こうした趣味を起業につなげた活動は、個性と能力を活かしたチャレンジの一つのモデルであり、さらに、その事業と子育てを両立している姿は、社会一体となって取り組んでいるワーク・ライフ・バランスの一つのモデルでもある。</p> <p>講演等の活動も積極的に行っていて、園芸に関する活動だけではなく、子育ての傍ら起業した経験を活かし、男女平等参画に関するフォーラムに参加してパネリストを務めるなど活躍の場を広げており、今後の活動に更なる飛躍が期待される。</p>					

【輝く北のチャレンジ賞】

団体名	ほんちよう 本町かみさん会	代表者	会長 むらた 村田 陽子	住所	石狩市
<p>《選考理由》</p> <p>国道231号の一部であった石狩川渡船で知られる石狩本町地区は、江戸時代から昭和50年代前半まで町役場、金融機関、商店、食堂などが立ち並ぶ賑わいのある地区であった。</p> <p>しかし、昭和40年代から札幌に隣接する地区に建設された大規模な住宅団地の影響や石狩河口橋が建設され、国道が市街の中心から離れたことによる人の流れの変化により、活気を失い、閑散としたいわゆるシャッター街となってしまった。</p> <p>この状況に危機感を持った地元の主婦たちが「人々の交流があり、活気が戻る町おこしを」と2004年に「本町かみさん会」を立ち上げ、翌年「来い来い番屋の生鮮広場」をオープン。現在、11名のメンバーが、食材や地元石狩の話題で盛り上がりながら、魚屋・八百屋・食堂等を明るく、元気に営むほか、地域活性化のためにイベントを開催するなどしている。</p> <p>こうした主婦による町おこしの活動は、女性の参画による地域の活性化の一つのモデルであり、噂を聞いてやって来た遠方からの観光客はもとより、地元の高齢者の利用も多く、大勢の方々が元気な「おばちゃん」との会話を楽しみにやって来ていることから、他地域の人々との交流だけではなく、地元の人々の交流の場としての発展も期待され、より一層の「賑わい」が望まれるところである。</p>					